

『樺池自然園の魅力』

樺池 Gondola リフトを下りた標高1560mから「中部山岳国立公園第1種特別地域」に指定され、標高1900m～2000mに広がる「樺池自然園」は日本有数の高層湿原です。数百万年以上もの長い年月をかけてできた4ヶ所のそれぞれ特徴ある湿原と、数百種類にも及ぶ色彩豊かな花々や高山植物が咲く大自然の空間です。

園内は一周約5.5キロの遊歩道と木道が整備され、最も奥に位置する展望湿原からは日本三大雪渓の「白馬大雪渓」が間近に望め、雄大な北アルプスの絶景が広がります。この素晴らしい大自然をお楽しみいただくとともに、次に訪れる方、後世に大切な自然を残すために、貴重な自然の保護にご協力をお願い致します。

花情報好評発売中!!

スタッフが毎週レポート。その時に見られる花の写真を撮影し見頃情報を紹介! ハイキングのお供に便利一枚。好評発売中!

■販売場所: 樺池ロープウェイ自然園駅・樺の湯売店



Q ロープウェイがあるのはなぜ?

A 標高1900m～2000mに広がる樺池自然園へは、平成5年までは車で自然園の入口まで上ることができましたが、車から出る排気ガスがもたらす自然環境への影響が懸念され、路線バスと車の乗り入れを全面廃止して、平成6年から代替輸送として環境への影響が少ないロープウェイの運行を開始しました。



Q オオシラビソと樺池の名前の由来は?

A 樺池高原の標高1500mより上部で多く見ることが出来るオオシラビソ。6月頃に花をつけ、長さ約10cmの青紫色の球果(マツボックリ)が枝の上に付くのが特徴。球果が多く付く年と付かない年があり、成熟すると球果のまん中の軸を残して羽のついた種子がばらばらと散ります。オオシラビソは通常のシラビソよりも



葉が密集しているのが特徴です。この地域では昔から「つがの木」と呼ばれており、自然園の湿原全体を「池」となぞらえて「樺池」という地名になったと言われています。

Q 木に付着している緑色の糸状に見える物は何?

A 「サルオガセ」といい、霧などの空気中の水分と光合成だけで成長します。付着している様子は、遊歩道やロープウェイ乗車中に見ることができます。



樺池高原レポート Q & A



Q 樺池自然園はどうやってできたの?

A 白馬乗鞍岳の火山活動に伴って階段状の断層ができ、樺池自然園、天狗原の平坦面が形成されました。その平坦面の窪みに池ができ、ミズゴケやワタスゲなどの植物が自生しました。こうした植物が枯れても寒冷な気象条件のもとでは腐ることなく泥炭化し、その上に新たな植生が生まれ、長い年月をかけて現在の樺池自然園の湿原が生まれました。



Q 4つの湿原にはどんな特徴があるの?



『ミズバショウ湿原』

メインステージは6月下旬～7月上旬にかけてのミズバショウの群生です。本州では一番遅咲きと言われ、残雪と新緑の調和のとれた中に咲くミズバショウの清楚な姿は清々しく感じます。7月下旬には皇室の文仁親王妃紀子様の御印でも知られるヒオウギアヤメ、8月中旬には長野県内では樺池自然園でしか見ることのできないクロバナロウゲの花を楽しむことができます。

『ワタスゲ湿原』

7月中旬～8月上旬にかけてのニッコウキスゲの花と、ワタスゲの白い花穂や、チングルマの花々が日光と高原に吹くそよ風を浴びてキラキラと輝き、後ろにそびえる北アルプスとの調和が感動的です。ミズバショウ湿原とともに多くの花が咲き誇る湿原です。



Q 『高層湿原』ってどんな湿原?

A 冷涼な地域では植物が枯れても微生物による分解がされず泥炭化し、周囲の地形よりも高く堆積したため、地下水の供給を受けず雨水のみで維持されるようになった湿原のことを高層湿原といいます。その堆積するスピードは1年間に0.5～1mm程度といわれ、周囲との高さにより『低層湿原』『中間湿原』『高層湿原』に分けられています。



『浮島湿原』

大きく開けた湿原中央に小さな池があり、その中に丸い浮島が頭を出している様子が湿原の名前の由来となり、池塘に映る白馬岳の姿は園内随一の撮影スポットになっています。ワタスゲの白い花穂やニッコウキスゲの花が同時に見られることもあり、秋にはチングルマやクロマメノキの草紅葉と山肌の彩が圧巻です。

『展望湿原』

園内奥の展望湿原では間近にせまる白馬三山の勇姿と日本三大雪渓のひとつ白馬大雪渓の展望を楽しむことができます。コース途中のヤセ尾根では、秋にはサラサドウダンの紅葉が疲れを吹き飛ばしてくれます。ヤセ尾根のピークには展望台があり、ここからも白馬三山や白馬大雪渓を間近に望むことができる絶景スポットです。



『低層湿原』 年間を通して地表流水のある湿原で、ミズバショウ、リュウキンカや大型植物が生育しています。

『中間湿原』 池塘周辺や小さな凹地の地下水位が高く安定した場所にみられ地表水が見られますが、夏から秋にかけては水位が低下し、高層湿原に発達する場合と乾燥して森林になっていく場合があります。
※池塘(ちとう)とは…湿原に点在する小池です。

『高層湿原』 湿原が水面より高く盛り上がり、地下水の供給を受けず雨水によって潤されている湿原です。土壌はほとんどが栄養状態が悪いので、生息している植物は栄養不足に耐えることができる小型のスゲ類のワタスゲ、ミズゴケ類のモウセンゴケ等が生息しています。



『モウセン池』

モウセン池は食虫植物のモウセンゴケが群生する小さな池があり、木のベンチがあって休憩や、お弁当を食べるおススメの場所です。

『銀命水』 清らかな冷たい北アルプスの湧水です。



『風穴』

太古の火山活動の名残と言われています。夏でも岩の間に残雪がみられ冷たい空気が吹き出してとても涼しく、ミズバショウの花が最後まで残るのもこの風穴の辺りです。夏のトレッキングの休憩にもうれしい、真夏でも8℃以下の冷気が心地良い天然クーラーです。

